

研究分野のキーワード：アメリカ先住民、奴隷制、十九世紀初頭のアメリカ女性作家、ウィリアム・ギルモア・シムズ、ナサニエル・ホーソーン

研究紹介

主に、十九世紀アメリカ文学の中のアメリカ先住民と奴隷制に関する諸問題を取り扱った文学作品、特に1820年代から南北戦争前夜の時代について研究を進めています。

フレデリック・J・ターナーが1893年に発表したフロンティア学説は米国の民主主義と個人主義の形成に寄与したものとして西漸運動を高く評価していますが、この新しい国家の誕生と発展が抱える功罪は、十九世紀初頭米国固有の文学素材と自己表現を求めた多くの作家や詩人たちにとっても重要な課題でした。1820年代、アメリカ先住民を固有の題材として選択した多くの作家が大衆文学、大衆演劇の中でそれを発展させ、それに伴いメタコム（英国植民地の人々が与えたフィリップ王という名前の方が有名かもしれませんが）を初めとする十七世紀のニューイングランドの先住民を主人公、もしくは準主人公とする数多くの小説や詩や劇が現れてきます。同時にアメリカ独立宣言に謳われた、「すべての人間は生まれながらにして平等であり、誰も奪うことのできない一定の権利を創造主によって与えられ、そのなかには生命、自由、および幸福の追求が含まれていることを、われわれは自明の真理であると信じる」という人権宣言に反する奴隷制問題について多くの作家が目を向け始めたのもこの時代です。

アメリカ先住民と南部奴隷制の問題に関して、これまでマサチューセッツ生まれのナサニエル・ホーソーン、サウスカロライナ州生まれのウィリアム・ギルモア・シムズを中心に研究してきましたが、現在の研究対象はこの二人の作家の前に位置する女性作家たちです。1970年代まで米国の文壇の主流から隅に追いやられていた作家たちですが、当時のアメリカ社会が女性に課した抑圧と苦悩はその発展の被害者である先住民とアフリカ系アメリカ人のそれと相通じるものがあります。同時に、自らがアメリカ社会の主流に属するという彼女たち白人女性の立ち位置は白人社会から疎外された先住民とアフリカ系アメリカ人との連携に大きな歪みをもたらさざるを得ず、男性作家が目指したのとは異なるアメリカの模索を彼女たちに迫ることもなります。現在リディア・マリア・チャイルド、キャサリン・マリア・セジウィック、フランシス・アン・ケンブルについて以上の観点から研究を進めています。